

食農クラウド Akisai

2K農業(勘と経験)に加えて、データを活かした農業を! 10年後を見据えて栽培のマニュアル化で情報技術の活用



NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

農業を取り巻く環境は激変しています。高齢化は待ったなし。加えて、地域を支える後継者は足りません。

これからの農業の担い手は、必ずしも農家の子弟だけとは限りません。都会からの新規参入、外国人など地域外から未経験者を呼び込まなければ成り立たなくなります。

又、地球規模の環境の変化は、従来の栽培品種に不適切になるかもしれません。

山田錦は、数年前までは新潟県では栽培が難しいと言われていましたが、新潟県でも十分に栽培ができるようになりまし。

「担い手不足」と「環境の変化」に対応するには、従来の「勘と経験」

では対処できない状況になっていきます。例えば、農産物検査は目視検査ですが、DNA検査機の登場により、1粒の異品種混入から発見できるようになりました。

「勘と経験」や「目視検査」を否定しているのではなく、アナログ技術にデジタル技術を加えることで、変化に対応しようというこ

とです。

2月の研修会で富士通(株)前田克美様からご紹介頂いた、「FUJITSU Intelligent Society Soluition 食・農クラウド Akisai」

農研機構・生研センターは、複数の水稲品種をコンバインで収穫する際、異品種混入(コンタミ)防止策として、収穫前のコンバイン内清掃と、刈り取り初めのもみ米10㍑を別にすること、異品種の混入率が0.01%以下に抑えられ

水稲のコンタミ防止 清掃、もみ分別が効果

2015年4月17日
日本農業新聞

同センターはもち米の収穫後に、うるち米を収穫して混入率を調べたところ、内部を清掃していないコンバインでは収穫開始直後、もち米が10%混入していた。その後も積算収穫量が100㍑を超えても混入が見られ

一方、もち米収穫後、コンバイン内に残ったもみ米を取り除いたところ、収穫開始直後のうるち米への混入率は0.1%まで減り、積算収穫量100㍑以降は混入を検出できないほどに混入率が下がった。さらに、うるち米収穫初めの10㍑を取り除けば全体の混入率は0.01%以下になった。

コンバイン内清掃はコンタミ防止に効果的だが、作業者の経験量で残留もみ米の除去精度が変わる。生産システム研究部の梅田直主任研究員は「熟練者の経験や知識をマニュアル化することで除去精度は高められる」と説明。農家でできるコンタミ防止策として、熟練者の経験を生かして清掃のマニュアル化を進める。

を導入することになりました。

スマートフォンやタブレットPCで簡単に入力ができ、蓄積したデータを栽培に活用できます。

今年度、新潟・山田錦栽培会で10名の導入を予定しています。スマホに慣れていない若手

の参加をお増ししています。

料金は、

- ◇初期設定料・千五百円
- ◇月額設定料・千五百円

となります。

初年度の参加者には栽培会から補助を予定していますので、ぜひご参加ください。

26年度の新潟県産コシDNA検査結果

品種構成	全体	構成比	首都圏	関西圏	インターネット
コシBL100%	168点	67.2%	83	74	11
従来コシ100%	21点	8.4%	12	5	4
コシBL+従来コシ	36点	14.4%	189	18	0
コシBL+その他	8点	3.2%	2	3	3
コシBL+従来コシ+その他	14点	5.6%	8	4	2
従来コシ+その他	3点	1.2%	2	1	0
合計	250点	100.0%	125	105	20

【新潟県が行った全国調査】

2015年5月11日 商経アドバイス

